

平成30年度 伊勢地域公共交通会議 第4回 議事要旨

■開催概要

日時：平成30年11月27日（火） 18時30分～20時10分

場所：いせシティプラザ 多目的ホール

出席者：全18名

学識経験者

2名（名古屋大学大学院環境学研究科教授
・近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科准教授）

市民代表 4名

一般乗合旅客自動車運送事業者

1名（三重交通株式会社バス営業部部长（乗合））

一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車運転者が組織する団体

1名（三交伊勢志摩交通労働組合 執行委員長）

鉄道事業者

2名（東海旅客鉄道株式会社 東海鉄道事業本部
・近畿日本鉄道株式会社 宇治山田駅長）

中部運輸局三重運輸支局

1名（首席運輸企画専門官）

三重県伊勢警察署

1名（交通官）

三重県 1名（地域連携部交通政策課長）

伊勢市 5名（市長・産業観光部理事・健康福祉部部长

・教育委員会事務部長代理・都市整備部部长）

事務局 5名（伊勢市都市整備部交通政策課）

■議事内容

■ 伊勢市内バス路線（外宮内宮線）への接続バス導入の進捗状況について

一般乗合旅客自動車運送事業者（三重交通）より、伊勢市内バス路線（外宮内宮線）への接続バス導入の進捗状況について、資料を用いて報告。

普通のバス車両は12mの長さであるが、接続バスは18mある。そのような長さのバスが、このルートを走行するという視点で見ればと思う。（中部運輸局三重運輸支局）

利用者の少ないバス停を結んでルート設定しているように見える。また、片側1車線しかない道路も含まれている。どのようにしてバス停やルートを決めているのか。浦田町など観光客が多く利用するバス停も停車してはどうか。（市民代表）

⇒皇学館大学前バス停は、利用者の多い平日の朝の通学に対応できればと考えている。宇治山田駅について18mの車両が通行するには厳しい状況にあるため、市や学識、鉄道事業者とも調整しながら検討していきたい。また、内宮周辺については、浦田町や神宮会館前なども含め検討したい。バス停については、現時点の案であり、まだ決定事項ではない。（一般乗合旅客自動車運送事業者）

車両のデザインは決まっているのか。また、自転車を載せることができるようなことも考えているのか。（伊勢市産業観光部）

⇒まだ具体的なことは決まっていないので、今後検討したい。（一般乗合旅客自動車運送事業者）

■ 市内循環バス社会実験運行ルート（案）について

事務局より、市内循環バス社会実験運行ルート（案）について、資料を用いて説明。

地域説明会にも参加したが、65歳以上の高齢者など100円で利用できる方が、乗り継ぎ割引を利用すると無料になるということがうまく伝わっていない。委員の方々からも地域の皆さんにもこの情報を広めてほしい。

乗り継ぎ割引の対象からタクシーがなくなっている。幹事会でも議論をしてきた事項ではあるが、例えばタクシーを利用した際の領収書をもって乗車証明とし、市内循環バスで乗り継ぎ割引してはどうか。（学識経験者）

⇒周知の方法については、今後も引き続き検討する。（事務局）

⇒タクシーについては、タクシー協会を通じ運行事業者11社、個人タクシー4社に協力依頼の照会をかけた。その結果、協力できるのは6社で、車両台数だと全体で約180台のうち約60%の110台程度となった。非協力台数も比較的多く、地域によっては協力事業者が運行していないなどの問題もあることから、今回は除外した。（事務局）

路線バスの乗り継ぎ割引について、ICカード利用者も割引できるのか。（市民代表）

⇒市内循環バスも含め、おかげバスではICカードは利用できない。割引きは、鉄道、路線バス内では出来ないので、市内循環バス利用の際にすべて実施するものとしている。（事務局）

情報が多くて高齢者にはハードルが高い。どれに乗ったらこれに乗れるなど、地域別に乗り継ぎダイヤをフォローしていただくと良い。（市民代表）

⇒本日初めて内容を見たが、理解に時間がかかる。高齢者は乗り継ぎ利用すると無料になることをもっとアピールしてほしい。小俣地域であれば東大淀・日赤ルートからの乗り継ぎもできる。（市民代表）

⇒小俣地域でも自治区連絡協議会と民生委員協議会を対象に説明会を開催し、その際にPRを依頼している。小俣地域には路線バスや東大淀・日赤ルートが運行しているが、近鉄とJRの駅もあり、それぞれ少なくとも1時間に1本は運行している。鉄道の利用についても考えて頂いている。（事務局）

⇒チラシだけでは分かりにくいので、民生委員の方からも高齢者の方々にPRをしてほしい。（市民代表）

チラシの時刻表について、現在は右回りと左回りとで交互に記載されているが、それぞれ分けて作成したほうが分かりやすいのではないかと。（市民代表）

⇒事務局で検討する。情報量が多い中での周知方法についても検討する。（事務局）

鉄道との乗り継ぎについて、通常は鉄道切符は回収されてしまうが、どのようにして割り引きを受ければいいのか。（三重県）

⇒先に帰りの切符を買っておいていただき、それを見せることで割引を適用する。また、ICカードの場合はカードを提示し、乗り継ぎであることを申告していただくことになる。（事務局）

⇒鉄道との乗り継ぎ割引はやめたほうが良いのではないか。鉄道に乗り継ぐと言っただけで割り引くのは、乗り継いでいない方でもそのように言うだけで割り引きが適用されるので、モラルハザードを招く危険性がある。切符は駅員に言えば無効券として持つて出ることが可能であることや、駅との接続は伊勢市駅だけであるため、伊勢市駅で何ができるのかを考えるべきである。また、ちゃんとデータを取れることが重要であり、不正ができる状況の中ではデータの信頼性にも問題が出てくる。（学識経験者）

⇒鉄道との乗り継ぎについては、幹事会では、性善説に立ち、まずは乗り継ぎ利用者を確保するということがあったが、学識経験者の言う通りでもあるため、事務局で検討していただきたい。（中部運輸局三重運輸支局）

市内循環バスは、ナビタイムでも検索可能になるのか。もし検索可能になるのであればチラシにも掲載すべきである。（三重県）

⇒現在調整中であり、早くても2月ごろになってしまう。（事務局）

乗り継ぎ利用者数は、乗り継ぎ券の枚数で把握しようとしているが、市内循環バスから初めて乗った方など、乗り継ぎ割引券を使用しない方の人数はどのように把握するのか。（一般乗合旅客自動車運送事業者）

⇒乗務員が直接運賃箱に乗り継ぎ割引券を投入対応するということが、運行事業者と調整している。（事務局）

バス停の表示について、今いるバス停の場所よりもどの方面に行くバス停なのかが分かることが大事である。路線図の線を矢印にする。1つだけではなく複数の主要な施設を方面として掲載する。どちら回りのバスが先に来るのがわかるように、逆方向の時刻表を小さくで良いので掲載すると良い。また、反対側のバス停の位置が分かりにくい場合は、その場所までの案内図も掲載すると良い。（学識経験者）

⇒バス停の表示内容についてご意見を踏まえ検討する。（事務局）

社会実験運行の開始は1月4日からで良いのか。また、1月5日から6日でも週末のため交通が混乱している時期である。運行開始早々に大幅な遅延が発生するのはイメージが良くない。せめて1月7日からの運行でも良いのではないか。（学識経験者）

⇒伊勢市においては、1月中は初詣の方が多く交通が多い状況になる。正月期間はパーク&バスライドを実施しており、また、路線バスも中之町などの区間を運行しないなどの措置をとっている。市立伊勢総合病院の新病院の開院に合わせるという意味ももちろんあるが、今後、本格運行した際の参考とするため、この正月時期も運行し、状況を把握することも大事であると考えている。（事務局）

⇒1月4日は首相の参拝も予定されており、さらなる交通混乱が予想される。また、1月4日はパーク&バスライドを実施しており、その区間はバスが停車しにくい状況になることから、確実に遅延する。（一般乗合旅客自動車運送事業者）

⇒市立伊勢総合病院においては、開院直後の1月から2月は外来診療を少し制限するという話もある。運行開始時期については事務局で調整する。(市長)

運行時間は夕方の16時ぐらいまでとなっているが、通勤利用への対応は考えていないのか。庁舎前なども含まれているので、職員の通勤に対応するのも良いのではないかと。(三重県)

⇒現在は、通院、買い物、公共施設利用を想定している。おかげバスの利用状況を見ても、多くは午前中の高齢者の利用であり、17時頃の利用は非常に少ない。モビリティ・マネジメントの一環として、公共交通の利用促進に取り組むことも考えたが、日常的に利用していただくのは、社会実験ということもあり難しいのではないかと考えた。(事務局)

⇒バスの乗務員は右回り、左回りそれぞれ1名ずつでと考えており、乗務時間の制限がちょうど16時ぐらいになっている。乗務員を増やせばもっと時間を延ばすことは可能である。(一般乗合旅客自動車運送事業者)

⇒人手不足の話もあるが、始発が7時頃と早いので、これを遅らせることで17時頃まで運行することはできないのか。(市長)

⇒市立伊勢総合病院の受付開始が8時30分、伊勢赤十字病院の受付開始が8時あり、その時間に合わせている。また、第1便と2便は連続運行で環状を1周半回るようにしており、朝一で病院へ行きやすいようにしている。(事務局)

⇒このようなダイヤ編成はまさに通院便である。そこをもっとアピールしたほうが良い。(学識経験者)

チラシのうら面にもあるが、こうやって乗り継いでいけばこの施設に行けるというものをもっと考えてほしい。それは事務局でやるのではなく、それぞれの地域で、自分たちで考えてやってほしい。そうすることで見えてくる問題もあり、地域で考えるきっかけにもなる。

チラシに多くの情報を書き詰めても伝わらない。地域によって状況は異なるので、それぞれの地域で自分たちで考えた方が浸透しやすい。強制でやるのではなく「そのような地域版の時刻表を作成した場合は市で印刷しますよ」というような役割分担をしても良い。

いつまでも市がやってくれる、考えてくれると思わず、地域で考えていくことが重要である。(学識経験者)

⇒2回目の地域別説明会で、社会実験の内容とそれぞれの地域の方向性について議論できればと考えている。熱心な地域もあることから、そのような地域から働き掛けをしてみたい。(事務局)

⇒たくさん乗って頂かないとより便利にはならない。不便だからと最初から乗らないとずっと乗れないバスのままとなる。このバス停で乗り継いだ人が多い、このバス停から乗った人が多いなどの情報を把握し、どの地域が頑張ったのかが見えるようにすると良い。運行を始める前から考えることも大事ではあるが、動き出してからどうやって使うかを考えることも大事であり、そのようなことを活かしていける仕組みができると良いと思う。(学識経験者)

⇒自分たちで考えていけば、自分たちで考えた結果であると愛着も沸く。まずは「地域のバス停を探してみよう」から始め、どのように利用できるかを考えていく。同じ地域でも住む場所によって使うバス停も異なることから、それぞれの地域でみんな集まって、自分の時刻表を作るなど、どのように取り組めばよいのかアドバイスは欲しい。(市民代表)

社会実験の期間は、新病院がいつごろから通常の診療が始まるかもあるが、1月は初詣客で交通が混雑することを考えると、2月からが通常期であり、通常期の運行は4か月しかないことになる。評価するにも期間が短いように思うので、事務局で社会実験期間の延長を検討してほしい。(学識経験者)

- ⇒社会実験期間を延長することも念頭に運行事業者とも調整している。幹事会でも議論し、次回の公共交通会議において延長期間を示したい。(事務局)
- ⇒社会実験の期間が終わると、一旦運行を取りやめるのか。それともそのまま本格運行に移行するのか。(市民代表)
- ⇒一定期間ずつ延長していきながら運行するのか、一旦やめて改めて運行するのも含め、次回の公共交通会議で議論していただきたい。(事務局)
- ⇒市民がこの運行に慣れるには時間がかかる。自分の時刻表を作成するのも春先になると思うので、やはり社会実験期間が短いように思う。TVなどの映像やフェイスブックなどのSNSも活用して周知しても良いと思う。(市民代表)

図書館が新たにルートに加わったが、何かタイアップがあると話題になる。社会実験運行で大事なものは、いかにみなさんに知ってもらい、利用していただき、慣れていただくことである。ララパークでも良いが、市の施設であればやりやすいのではないかと。病院とのタイアップでも良いので検討してほしい。(学識経験者)

- ⇒どのようなことができるか検討する。(事務局)
- ⇒図書館でこども連れをターゲットに、「市内循環バスを利用してブーブー絵本(乗り物の本)の読み聞かせに行こう」などのイベントをしても良いのではないかと。(市民代表)

市の会議などの行事の案内文で、バスなどの時刻表を記載しているものとしらないものがある。できればおかげバスも含め記載するように統一していただくと良い。(市民代表)

市内循環バス社会実験運行ルート(案)について、本日の意見を基に事務局において検討、対応し、予定通り運行開始することで承認をいただいた。

■ その他

三重県伊勢警察署より、今年度の伊勢市内における死亡事故が多い状況の報告と、安全運転等の徹底の周知のお願い。

以上